

名張市教育委員会は、2月17日に市議会全員協議会で名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期計画案（2016～20年度）を示し、小中一貫校を平成32年度には全市で実現したいと説明した。桔梗が丘では、桔梗が丘、桔梗が丘南、桔梗が丘東の3小学校と桔梗が丘中を再編し「桔梗学園」（仮称）の校名で、東小と2年後に閉校する県立名張桔梗丘高校の校舎で31年度から小中一貫教育でスタートする計画だ。

東小と桔梗丘高校の校舎利用 桔梗が丘で小中一貫教育校 新年度に開設準備委員会

ききょうよう通信

2016年3月(平成28年)

発行 桔梗が丘自治連合協議会
連絡先 桔梗が丘公民館内
TEL 65-1206
FAX 65-1206
Eメール kikyou-ko@emachi-nabari.jp
5,670世帯・13,901人
(2016年2月1日現在)

桔梗学園(仮称)の構想

名張市での小中一貫教育は平成27年度から、南中学校区(つつじが丘)で実践研究を開始している。28～29年度Ⅱ研究の成果を検証、30年度から本格実施のプログラムを進められ32年度から市内全域に順次拡大する計画だ。

桔梗学園(仮称)は、桔梗が丘小、桔梗が丘南小、桔梗が丘東小の3校と桔梗が丘中学校を統合し、小中一貫教育校を目指す。

新設校は、前期課程(新1～4年生)が旧東小の校舎で、後期課程(小学5、6年生と中学生での新5～9年生)が旧名張桔梗丘高校のそれぞれの施設で学ぶ。東小と桔梗丘高校の選

小中学校の規模・配置の適正の基本方針

昭和56年(1981)に人口増加率7.8%で日本一だった名張市が、平成12年の8万5千人をピークに下降し続けている。児童生徒数も同様に平成3年の10,762人をピークに平成19年には7千人を割り、平成31年には5,892人と推計されている。ピーク時の半分に至り、市制発足の昭和29年度を

定は、廃校になる3校と比較した結果だという。

採用される両校舎は隣接しているので教育制度での形態は「施設隣接型」に属し、利便性に富み一貫教育には有利とされている。

開校は、平成31年度を目指している。

市が今回に示したのは素案(練り上げて、まとまった案にする前の大もとになる案)であり、市議会全員協議会(地方自治法や会議規則で決められていない会議で審議や議決も行わない報告・協議が主)で示した段階であり解決しなければならぬ問題は山積のようだ。

開校に向かつて「校区、通学路などについては、当該学校の教職員、PTA役員をはじめ保護者、地域住民などで構成する(仮称)桔梗学園開設準備委員会を平成28年度早期に立ち上げ、開校に合わせて検討し進める」としている。現場の主役は児童・生徒、保護者と教職員である。主役や主役を支援する地元の声がどれだけ届くか注視したい。

も下回るともいわれている。

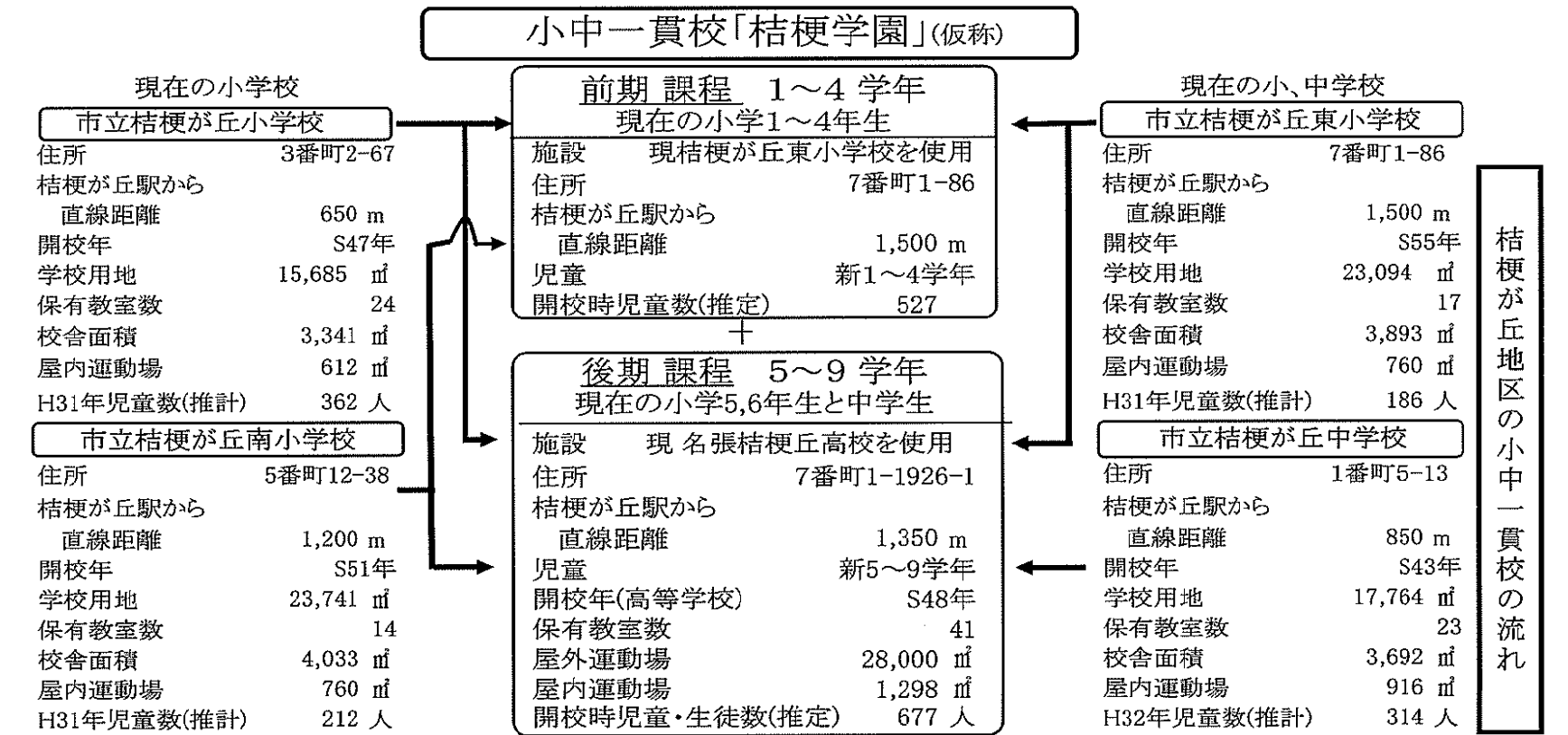
この事態に教育委員会は、平成22年に「小中学校の規模・配置の適正化実地計画」の基本方針を示し前期実地計画を策定した。今年2月に示されたのは、基本方針を踏まえた後期実地計画であるので前期の主なものは次のとおり。箇条であるが記しておく。

- 学校の適正規模Ⅱ
- 小学校は1学年2～3学級。中学校Ⅱ1学年3～6学級
- 通学区域Ⅱ
- 小学校はおおむね4km、中学校はおおむね6km以内を原則としつつ、その距離を上回る場合は、通学時間が児童生徒の心身の負担にならないよう考慮する。
- 1学級当たりの児童・生徒数Ⅱ
- 国が示す標準的な学級規模は40人以下。
- 規模の適正化の対象Ⅱ
- 複式学級(学年の児童生徒数が一定の基準に満たない場合に、近接する二の学年を併せて1つの学級を編制する)。全学年が1学級で編制されている(桔梗が丘東小)。1地域に小学校が複数設置されている桔梗が丘小、桔梗が丘南小、桔梗が丘東小)
- 校区と地域が不一致の場合の調整を進める

- ① 10時～11時30分
桔梗が丘公民館
- ② 13時30分～15時
桔梗が丘南公民館
- ③ 16～17時30分
桔梗が丘西集会所

市は3月13日(日)に3会場で住民説明会を開催する。時刻・会場は次の通り。

桔梗が丘地区の小中一貫校の流れ



23種の野鳥を

ウォッチング



桔梗が丘自治連合協議会の新年の早々行事として「どん」と並んで定着している「バードウォッチング」が、1月の

16日に今年も桔梗の森公園で開催された。暖冬といえども冬本番。参加者35人が耐寒装束で、園内の西徳明池から東徳明池まで2時間半のウォッチングを楽しんだ。バードウォッチングを訳すると野鳥観測。同好の士の間では鳥見（とりみ）ともいうそうだ

この行事は、同協議会の快適環境部会が開催し続けて今年第13回。今回も日本野鳥の会・田中豊成さんの先導と解説で、鳥の生活を知り自然の素晴らしさを学習した。暖冬なので例年からすると鳥の数が少なく感じると参加者はいうが、種類が例年より多く「初めて観たわ」との歓声も聞こえた。主催者では23種野鳥を確認したそう。

地域事務員募集

勤務地 桔梗が丘6番町1-131-4
桔梗が丘市民センター
(4月1日以降名、旧桔梗が丘公民館)

職種 ・パソコン(ワード、エクセル)で簡単な事務処理
・主催学級・講座の企画と運営

応募条件 ・桔梗が丘に住居している
・普通自動車運転免許取得

勤務時間 ・8:30~17:00(休憩1時間)が基本のシフト勤務。土、日、祝の勤務あります
・7.5時間/日、13~14日/月の勤務

時給などの詳細のお問い合わせ 勤務地の☎0595-65-1206へ

応募書類 申込書(事務局窓口にて)、履歴書
作文「地域づくりについて思うこと」
800字程度

応募締め切り日 平成28年3月31日(木)

健康講座 3月26日(土)

脳の老いと物忘れ&認知症

老いを迎えると体力も脳も衰え子どもにも近所にも迷惑をかけたくないのは誰もが願う。桔梗が丘自治連合協議会・健康推進部が、信貴山病院の分院・上野病院の平尾文雄院長さんを招いて、物忘れと認知症の違いからを説き、認知症

どんと参加記

1月17日午前7時半「どんと」の取材で二番町・三角公園に着く。車の外気温度計はマイナス2度を示している。広場では男性のスタッフが「やぐら」を中心に点火の準備に忙しく動いている。据え付けられたテント近くでは女性のスタッフが、振る舞いのラーメンやうどんに使うお湯の用意に余念がない。スタッフは約50人とのこと。

開催30分前だから参加の人はまばらだが、去年に比べると少なく感じる。寒いのが原因かと心配する。点火10分前になると、しめ飾りや書き初めなどを抱えた人たちが続々と集まってきた。スタッフが焚く(たく)物を分別してやぐらに納める。

8時人の集まりはもう心配はない。今年も厄年(やくどし)の三人が点火した。参加した人のいろんな願いが、炎の勢いに舞う。今年も皆が無病息災であって欲しい。参加は約450人、うち子どもが78人だった。毎年に参加している5歳児

の予防や早期発見・治療の講座を開催する。
3月26日(土)14時開演、90分の講座。場所は桔梗が丘公民館・講堂、参加の申し込み不要、参加費無料。
昨年10月には70人が学習した人気の講座。



の父親は「願いごともありますが、子どもにも火の恐ろしさを説いています。小さな炎がまたたく間に大きくなる怖さを知るのは、火事が少ない桔梗が丘ではここだけです。火の神様には申し訳ないけれど」と話していた。そうか、どんとは子どもに防火も教えてくれるのを知った。

鳴滝池の遊歩道 雨上がりも楽々散歩

桔梗が丘5番町の「鳴滝公園」はヌマスギの気根(通称「五百羅漢」)を楽しませてくれていたが、昨春から遊歩道が浅い池の状態が続いていて、気根ファンをガツカリさせていた。市の管理部署が排水溝を施工したあと、公園の管理を受けている桔梗が丘自治連合協議会の「桔梗が丘みどりの会」が、公園の整備で出た木のチップで歩道を敷き詰め、ブロックを歩幅に合うよう敷き増やした。最初は雨水の排水に問題と思われたが、快晴が続いても排水溝には休むこと無く水が流れている。知る人の話では湧き水だろうとのこと。自然は怖い。今日も気根ファンが楽しく歩いている。



愛農園の道順

土との触れ合いを愛し、農産物の収穫を楽しむ「愛農園」への道順の問い合わせをいただいた。とにかくセンターかがやきとバックネットを目指してもらえば到着します。

作業は土曜日で午前9時から11時。第3土曜は全員が集合している。質問にもお応えします。

過酷な整地作業が終わり、今年からは本格的な畑作業を楽しめます。

